2017年2月27日　建設工業新聞

構造物の劣化状況を議論

コンクリート診断士会セミナー

新潟県コンクリート診断士会（会長・地濃茂雄新潟工科大学名誉教授）は24日、16年度第2回技術セミナーを新潟市立中央図書館で開き、約50人が参加した。

冒頭、地濃会長が「今後、我々の使命であるインフラの診断業務が極めて多くなっていく。技術力を磨いて会を発展させていきたい」と述べ、「これからは、みんなで話し合うコミュニケーションの時代。きょうの現場研修報告の中で意見を求めていきたい」と活発な議論を促した。

現場報告で意見を交わした参加者

続いて、本田明副会長（水倉組常務取締役）が16年8月の村上地区、11月の糸魚川地区で海岸近くにある体育館や橋梁、観光施設のコンクリート構造物の劣化状況を報告。海岸側に面した壁や柱、橋台などでさび汁、ひび割れやはく落などが進行しており、定期的なメンテナンス、流動化コンクリートの使用、防錆処理などの対策が必要と説明した。参加者からは中性化か塩害か劣化の原因を調査することやかぶりが薄くなった施工時の問題、凍害による劣化の可能性などが指摘されたほか、さまざまな角度から意見を交わした。

その中で、「海側は風の影響が大きく、構造物に塩がつきやすいが、雨が当たる面は水で塩が洗い流される」との見解に、地濃会長は「水の勢いで上から流れてきた粒子、下側が劣化しやすくなる。粒子、水、風向きの問題が大きく関わっている」と述べ、「設計者に対してコンクリート構造物の耐久性について発信していく必要がある」と強調した。

技術講演会では、ジェイアール総研エンジニアリングの鳥取誠一防災技術部長（工学博士）が講師となり「塩分吸着剤を活用した断面修復」をテーマに解説。ダイアテックの丸山聡代表取締役は「インフラ施設の維持管理に関わる新材料および新工法」と題して、各社が開発した点検・診断、工法技術などを分かりやすく紹介した。